

公益財団法人 公害地域再生センター

あおぞら財団 年次報告書

vol. 18

手渡したいのは
青い空

2014.3～2016.3 合併号



お助けボランティアとして、中学からの留学生や大学生、公害病患者さんなど、計 13 人(のべ 56 人)の皆さんからご支援いただきました。また、インターン生は 2014 年度 10 人、2015 年度 6 人を受け入れました。インターン期間終了後も継続してイベント運営ボランティアをしてくれた方も複数いました。また、あおぞら財団の活動は多くの方からご寄附・ご寄贈によって支えられています。皆さま、本当にありがとうございました。

◆お助けボランティア(敬称略・順不同)
(2014年度、2015年度)

青山 佳大	西堀 京美
大野 みさ子	藤野 誉久
岡崎 久女	前田 浩輔
岡村 裕成	松井 悠歌
左成 志朗	三尾 勇介
張 慧超	山下 晴美
長洲 智子	

◆インターン生(敬称略・順不同)
(2014年度)

石田 裕也	(近畿大学経営学部経営学科3年)
井實 彩嘉	(近畿大学総合社会学部総合社会学科3年)
寿 千奈美	(近畿大学経営学部会計学科3年)
杉山 紘基	(近畿大学経営学部経営学科3回生)
徳澄 あおい	(桃山学院大学社会学部社会学科3回生)
富田 友輔	(大阪経済大学経営学部経営学科3年)
飯田 舞子	(奈良女子大学生活環境学部住環境学科3回生)
福田 莉子	(桃山学院大学国際教養学部教養学科3回生)
前田 茜	(近畿大学経営学部経営学科3回生)
増田 浩杉	(大阪経済大学経済学部地域政策学科3年)

(2015年度)

王 彦卿	(東京工業大学社会理工学研究科経営工学博士1年)
畠田 真武	(近畿大学経営学部経営学科3回生)
嶋田 大樹	(大阪経済大学経済学部経済学科3回生)
石原 大揮	(大阪経済大学経済学部地域政策学科3回生)
藤崎 優美	(桃山学院大学国際教養学部国際教養学科3年生)
當間 美波	(神戸市外国語大学中国学科3年)

◆寄附・寄贈者(敬称略・順不同)

逢坂 隆子	小林 俊康	谷内 久美子
伊藤 卓次	松井 清志	中村 昌史
井上 善雄	松村 暢彦	中島 晃
遠洲 寻美	笑福亭 仁勇	長瀬 文雄
遠藤 宏一	上田 敏幸	長野 義春
塙貝 隆夫	植田 和弘	辻 幸二郎
奥村 昌裕	新井 真	田中 佳世
吉村 良一	新田 保次	湯川 創太郎
吉田 巍	森山 正和	藤井 克己
宮崎 悅子	深見 正仁	南 聰一郎
宮本 憲一	神戸 秀彦	萩山 克彰
宮本 由貴	清水 万由子	柏原 愛子
金谷 邦夫	西口 熱	柏原 誠
刃刀 恵美子	西村 弘	白神 加奈子
甲斐 道太郎	西塙 美子	樋木 忠義
佐々木 隆生	西本 由紀子	片岡 直樹
鷺坂 長美	石井 琢也	片岡 法子
山崎 圭一	石川 和宏	北泊 謙太郎
山西 良平	石塚 裕子	牧 洋子
山田 明	川崎 美榮子	門谷 充男
山本 康子	浅井 真二	矢島 鉄也
酒井 健一	早川 光俊	脇田 武利
小口 悠	蔵本 幸治	櫻井 次郎
小川 嘉憲	村松 昭夫	澤井 余志郎

(独法)環境再生保全機構
NPO法人 西淀川福祉健康ネットワーク
Puれいは～つ
株式会社あゆみ印刷デザイン
金沢大学日本史学研究室
山崎スチール株式会社
神戸大学大学院人文学研究科倫理創成プロジェクト
水俣協立病院
西須磨都市計画道路公害紛争調停団
全国公害被害者総行動実行委員会
全日本民主医療機関連合会
地球市民共育塾ひろしま
日本科学者会議有志一同
日本環境会議
薬害イレッサ訴訟原告弁護団



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

発行:あおぞら財団 発行日:2016年12月 編集者:藤江徹 デザイン:須藤彩

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階
Tel: 06-6475-8885 Fax: 06-6478-5885 Email: webmaster@aozora.or.jp <http://aozora.or.jp/>

2014年度、 2015年度 の総括

あおぞら財団 理事長 村松 昭夫



3. 財団は、以上のようなこれまでの経験や成果、問題点や課題、財団を取り巻く社会経済的な状況の変化、財団への期待等を踏まえて、設立20周年を新たな財団のスタートの節目していくために、2014年度に、「財団設立20年構想ワーキング」を立ち上げた。

そして、ワーキンググループでの議論を踏まえて、この間、設立趣旨や目的の再定義、それを基礎にした事業分野・内容の思い切った見直し・統合、新規事業の開拓、持続可能な財团経営の追求、組織としてのガバナンスの強化、内部諸規定の整備等に努めてきた。とりわけ、事業分野を、従来の5分野から、
①環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む、②公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる、③日本の公害経験をいかした国際交流の3分野に整理・統合し、理事会や評議員会の運営規定期金運用規定期定などの内部規定の整備等を行い、姫里ハウスの積極的な活用などの新規事業の立ち上げにも着手している。

4. 2014年度、2015年度は、財団設立20周年を節目とした上記のような財団改革を行いつつ引き続き厳しい財政状況が続くなかで、後述するような各分野での取り組み、事業を進めてきた。

これからも、財団の設立趣旨、目的、財団改革の方向性を踏まえ、一層研鑽を積み、地域再生、環境再生事業の次のステップに向け各種の取り組み、事業を前進させていくたい。

2. 当財団の活動は、年々多様となり、それぞれの分野で成果を上げ実績を積み重ね、少ない分野で外部からも高評価を受けてい。何よりも、地域を中心にして設立時には考えられなかったような人や団体との繋がりが広がり、深まってきていることは、当財団の貴重な財産となっている。また、近時は、環境、福祉、防災を有機的に結合させた地域づくりの取り組みを重視し、行政との連携も進んでいる。

一方、あおぞら財団は何をしているところなのかわからないという疑問が今なお各方面から寄せられ、財政面での改善も進まず、経営的視点の欠如や人的資源の不足、組織としてのガバナンスの不足など、設立目的を達成していくという視点から見れば、多くの克服すべき問題点や欠陥を抱えているのも事実である。

1. 公害で疲弊した西淀川地域を人と環境に優しい地域に再生させていくこと（地域再生）を目指して設立された財団も、2016年9月に満20年を迎える。

この設立趣旨・目的を実現するために、①公害のない住みよい地域づくりを進める活動（地域づくり）、②資料館の運営とネットワークづくり（資料館）、③公害経験や地域資源を活かし、環境まちづくりの担い手育成（環境学習）、④公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動（環境保健）、⑤日本の公害経験をいかした国際交流（国際交流）の5分野を中心に、住民、市民とともに地域再生、環境再生に向けた調査・研究、提言、シンポジウムの開催などに取り組み、事業活動を行ってきた。



公害のない住みよい 地域づくり

事務局長 藤江徹



◎目標

西淀川公害からの教訓をいかし、公害によって疲弊した地域の環境再生、及び、持続可能な地域社会づくりをすすめていくため、環境再生・交通まちづくりに関する調査・研究・事業などに取り組む。



◎おもな業務一覧

- ・自転車を活かしたまちづくり
- ・菜の花プロジェクト（西淀川地域での廃油回収と菜の花栽培）
- ・地域イベント「みてアート～御幣島芸術祭」への参画
- ・「防災記憶の掘り起こし」プロジェクト（JR西日本助成金）
- ・西淀川区災害時要援護者支援推進事業（大阪市西淀川区）
- ・西淀川道路連絡会の実施
- ・地域交流拠点「あおぞらイコバ」の活用、あおぞら市の開催

御堂筋サイクルピクニック開催 & タンデム自転車の普及

自転車文化タウンづくりの会事務局として、「ちゃんと走るうー＆もっと自転車レーンを！」をアピールする御堂筋サイクリング（年2回春と秋）の開催や、（一社）CMAと連携し、西淀川子ども自転車教室の実施など、自転車を活かしたまちづくりを進めています。また、「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」との連携により、体験会の開催協力など、視覚障害者はじめ誰でも自転車を楽しめる環境づくりに取り組んでいます。

菜の花プロジェクト「ニシヨドガワノラシゴト」 ～親子で始める菜の花栽培～

2015年10月より、佃地区の（株）ニチノーサービスさんから工場内の土地をお借りして、みんなで「農園」を作りました。2015年度は、秋に菜の花のタネをまき、のべ200名の方に参加してもらって、翌春に約23kgの菜種を収穫、搾油して「なたね油」ができました。併せて、西淀川地域の企業や町会、学校と連携し、廃油回収を継続しています。

防災まちづくり

西淀川地域をはじめ、各地区の多様な主体と協働で、防災まちづくりに取り組んでいます。特に災害時における要援護者の支援について、西淀川区役所からの委託業務として、要援護者支援推進会議、各地区での要援護者支援の取組みサポート、福祉避難所連絡会の開催、福祉避難所合同訓練等を実施しています。また、JR西日本あんしん社会財団助成金を受け、「防災記憶の掘り起こし」を進め、絵本「西淀川にたいふうがきた」を作成し、読み聞かせ会などを実施しました。

みてアート（御幣島芸術祭）

かつて「公害のまち」とも呼ばれた西淀川区で、「環境のまち・ニシヨドガワ（青空をとりもどしたまち）」を掲げて、みんながまちのことを考える機会として「ニシヨドでみんながアートする日＝みてアート」を様々な個人・団体と協力して開催しました。街中の各所で展示やライブ、イベントなど様々な西淀川ならではのアート活動を行っています。

この活動を通して、互いの気づきやたくさんの発見が生まれ、『まちを元気にする』ことをめざしています。

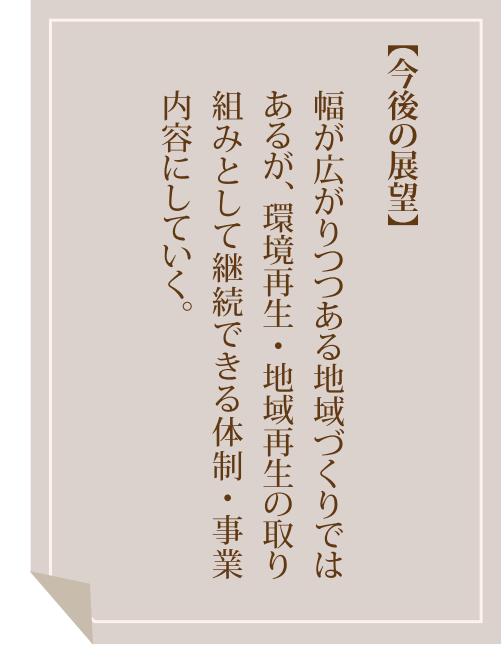
西淀川道路環境対策連絡会（道路連絡会）

大阪・西淀川公害裁判において原告・国土交通省近畿地方整備局・阪神高速道路公団との間で交わされた和解条項に基づいて設置されました（1998年）。西淀川地域の道路における環境施策の円滑かつ効率的な実施に資することを目的とし、2014年度までに18回開催、あおぞら財團がサポートしています。

ワーキング会議を設けて大気汚染対策（特に、PM2.5対策）や国道4号から湾岸線への大型車の移行、歌島橋交差点などについて継続的に検討してきました。

【今後の展望】

幅が広がりつつある地域づくりではあるが、環境再生・地域再生の取り組みとして継続できる体制・事業内容にしていく。





▲企業分科会
▲富山フィールドワーク
▲富山県立イタイイタ病資料館



環境省の協働取組事業3年目となり、公害資料館ネットワークの取り組みに日本環境教育学会が協力してくれるようになり、興味を持つ人が増え、また、議論を持った人が増えてきました。そして、2年間の取り組みで「顔が見える関係」になりました。しかし、過去2回のフォーラムにて、議論を重ねてきたが立場の違う人は言葉が違っために、議論にならないことが多いため、公害問題が見えてしましました。そこで、ネットワーク構成員によるクオーレズドの研究会を開催することになりました。

この研究会によって、各地の取り組みを共有し、課題を共有するという、公害資料館ネットワークが当初からやりたかった目標を達成することができます。このあたりから、このネットワークが業務を行う上で有益であることを、参加者が感じたようです。本音で話ができるような場ができると、共有可能な主體と連携・協働しながら、ともに一度と公害を起きた。特に、館の運営の課題について、来館者も交じる形でオンラインで話すことはリスクが大きく、議論が深まらない立場の違う人は言葉が違っために、議論にならないことが多いため、公害問題が見えてしましました。そこで、ネットワーク構成員によるクオーレズドの研究会を開催することになりました。

この研究会によって、各地の取り組みを共有し、課題を共有するという、公害資料館ネットワークが業務を行う上で有益であることを、参加者が感じたようです。本音で話ができるような場ができると、共有可能な主體と連携・協働しながら、ともに一度と公害を起きた。特に、館の運営の課題について、来館者も交じる形でオンラインで話すことはリスクが大きく、議論が深まらない立場の違う人は言葉が違っために、議論にならないことが多いため、公害問題が見えてしましました。そこで、ネットワーク構成員によるクオーレズドの研究会を開催することになりました。

（2015年度） 協働ビジョン策定

研究会を発足

環境省の協働取組事業3年目となり、公害資料館ネットワークの取り組みに日本環境教育学会が協力してくれることになりました。特に、館の運営の課題について、来館者も交じる形でオンラインで話すことはリスクが大きく、議論が深まらない立場の違う人は言葉が違っために、議論にならないことが多いため、公害問題が見えてしましました。そこで、ネットワーク構成員によるクオーレズドの研究会を開催することになりました。

信頼関係からビジョン策定へ

この研究会によって、各地の取り組みを共有し、課題を共有するという、公害資料館ネットワークが業務を行う上で有益であることを、参加者が感じたようです。本音で話ができるような場ができると、共有可能な主體と連携・協働しながら、ともに一度と公害を起きた。特に、館の運営の課題について、来館者も交じる形でオンラインで話すことはリスクが大きく、議論が深まらない立場の違う人は言葉が違っために、議論にならないことが多いため、公害問題が見えてしましました。そこで、ネットワーク構成員によるクオーレズドの研究会を開催することになりました。

【今後の展望】

公害資料館ネットワークが、この取り組みをするまではなかったということに驚く人は多くいます。同じ立場の人たちであればネットワークを作りやすいのですが、公害は立場が違えば見えないもの・伝えたいことが違うために、ネットワークは作りにくい状況になりました。だからといって、あおぞら財團として、公害を伝える取り組みが広がっていかない状況に、指をくわえて見ているわけにはいきません。

公害資料館ネットワークのホームページ (<http://kougai.info/>) とパンフレットを作成・配布することもできるようになりました。公害資料館の存在をみんなで協働して発信することが形として表わすことになりました。

西淀川・公害と環境資料館の運営とネットワークづくり

研究員 林 美帆

目標

公害克服の経験を発信することで、人々の公害問題への関心を高め、二度と公害の起こらない、安心して暮らせる社会環境づくりを目指す。そのため、公害から現在を読み解き、地域史の中の一つとして捉え、そして公害を知らない人が多数になった現在において、公害を学ぶ意義を捉えなおし、発信していく。

主な業務一覧

- ・「西淀川・公害と環境資料館」の日常業務の充実
- ・公害地域の現在を知る、情報を集める、伝える（千葉・東京の大気汚染裁判の資料整理・情報発信など）
- ・西淀川地域の記録の収集（あおぞらイコバでみせ、おもろいわ西淀川など）
- ・ネットワークづくり（公害資料館ネットワークなど）

（2014年度） 企業との歩み寄り

連携したからできること

環境省の協働取組事業として公害資料館ネットワークを結成して2年目になります。

1年目は全国各地にある公害を伝えようと努力している人たちが顔見知りになりました。それからお互いやつていてことを知り、協力をお願いできる関係になりました。このように書くと、当たり前のことのようですが、ネットワークが結成するまで、同じような活動をしている人がいることを知らず、各地が孤立していたのです。

2年目はそこから一步進んで、公害資料館が連携することで、できるのことを明らかにしました。ここでいう公害資料館の連携とは二種類あることになります。

公害において、一番大切にされる視点は「被害」である。しかし、被害だけでは公害の全体像を把握することが難しい。資料館はステークホルダーの立場で、機能していただけるようになります。

公害資料館同士の連携と、テークホルダーを繋ぐ役割があるということを明らかにしました。そのことについて各資料館と合意を計りました。

富山の緊張感ある信頼関係

地方のステークホルダーをつなぐ1つの事例として、富山のイタイイタ病資料館において、原因企業との関係性の構築の作り方の一例として、フォーラムで神岡鉱業株式会社の公害裁判後の対策について語つても

位置を尊重し、各視点に目を配る必要性がある。また、地域の公害の解説のみに終わるという社会構造の理解といつて、公害資料館ネットワークが必要になってくる。つまり、地域の様々なステークホルダーの連携と全国の公害地域の連携の二つが求められている。資料館は被害者に寄り添いながら、立場の違う人たちをつなぐ場として機能していただけるようになります。

これらの取り組みによって、公害資料館は違う立場の人たる希望についてヒアリングを行い、公害資料館ネットワーク会議にて議論しました。

これらの取り組みによって、公害資料館は違う立場の人たちをつなげる「場」として機能することが共有化されたと思います。

議論する場をつくる

この公害資料館ネットワークは、公立や民間など主張や活動分野が違う人たちが一緒に議論する貴重な場であり、事務局としては運営が難しいですが、公害を広く伝えるため、次世代に伝えて行くためには必要な作業となります。

あおぞら財團が公害患者さんから託された「公害を伝えほしい」という使命は非常に重く、困難ですが、このネットワークを運営・継続することでもクリアして行きたいと考えています。

◎公害資料館ネットワークの運営

位置を尊重し、各視点に目を配る必要性がある。また、地域の公害の解説のみに終わるという社会構造の理解といつて、公害資料館ネットワークが必要になってくる。つまり、地域の様々なステークホルダーの連携と全国の公害地域の連携の二つが求められている。資料館は被害者に寄り添いながら、立場の違う人たちをつなぐ場として機能していただけるようになります。

これらの取り組みによって、公害資料館は違う立場の人たちをつなげる「場」として機能することが共有化されたと思います。

これらの取り組みによって、公害資料館は違う立場の人たちをつなげる「場」として機能することが共有化されたと思います。

これらの取り組みによって、公害資料館は違う立場の人たちをつなげる「場」として機能することが共有化されたと思います。

この公害資料館ネットワークは、公立や民間など主張や活動分野が違う人たちが一緒に議論する貴重な場であり、事務局としては運営が難しいですが、公害を広く伝えるため、次世代に伝えて行くためには必要な作業となります。

あおぞら財團が公害患者さんから託された「公害を伝えほしい」という使命は非常に重く、困難ですが、このネットワークを運営・継続することでもクリアして行きたいと考えています。



▲学校の分科会
▲四日市公害と環境未来館
▲四日市フィールドワーク



環境まちづくりの担い手育成

研究員 栗本 知子



▲セミのぬけがら調査
▲公害患者さんと出前授業
▲「西淀川・環境学習プログラム」

目標	概要
公害を経験した西淀川の地域資源人、自然、歴史、文化等)を教材とし、公害のないまちづくりを実践する担い手の育成に取り組む。様々な主体と連携しながら、持続可能な社会づくりにむけて行動する場をつくる。	西淀川での公害・環境学習の推進。学校への出前授業、教材の提供、講師紹介といった支援や、区役所や地域住民などと連携し子ども向け環境学習イベントの開催などをしています。

おもな業務一覧	西淀川公害に関する教育活動(区内小学校への出前授業、プログラム開発など)
・西淀川公害にかかる教育活動(区内小学校への出前授業、プログラム開発など)	・「ドコモ市民活動団体への助成」事業「伝えよう学ぼう環境のまち西淀川」小学校での地域学習プログラムの作成と普及」
・小学生ととりくむ自然・環境調査の約20年を振りかえり	・「ドコモ市民活動団体への助成」事業「伝えよう学ぼう環境のまち西淀川」小学校での地域学習プログラムの作成と普及」

2014-15年度
『中島大水道まち歩きマップ』
が完成



2014-15年度 『中島大水道まち歩きマップ』 が完成	西淀川で歴史や教育・まちづくりに興味のある有志が集まり活動している「中島大水道サロン」では、まち歩きなどの調査を重ね、実際に中島大水道の跡をたどって歩くことのできる地図と歴史情報を掲載したまち歩きマップを作成しました。
138号、2015年12月。改めて「二度と公害の起らぬ町」の実現のため、どのような事業が適切かつ効果的かを企画・検討していくことになりました。	大阪市西淀川、淀川区、東淀川区で歴史や教育・まちづくりに興味のある有志が集まり活動している「中島大水道サロン」では、まち歩きなどの調査を重ね、実際に中島大水道の跡をたどって歩くことのできる地図と歴史情報を掲載したまち歩きマップを作成しました。

今後の展望

西淀川公害の経験から学ぶ資料館事業と連動させながら教育・研修事業を強化する。新たな教材開発に取り組む。
西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。

2014-15年度 『西淀川・環境学習プログラム』 の発行	西淀川区内小学校で、 公害患者の語り部の 出前授業増加
「ドコモ市民活動団体への助成」を受け、これまでの環境学習の実績を踏まえ教育プログラム集を作成。	毎年小学校5年生3学期に区内小学校全校に働きかけ実施している公害の出前授業は、2014年度は6校337人、2015年度は7校363人を対象に実施しました。視聴覚教材を使った授業と語り部の授業を提案していますが、2015年度は区内14校中半数の7校で語り部の授業を実施することができました。
西淀川公害を中心取り上げた『西淀川公害から学ぶ』、日本野鳥の会大阪支部とともに10年続けている定期探鳥会の蓄積から編集した『にじょどがわのかわいい鳥を見に行こう』、菜の花プロジェクトや「エコでつながる西淀川推進協議会」での活動を踏まえた『ゴミ』を資源にする方法を考える西淀川推進協議会の3冊で、西淀川区内的小中学校に配布し、活用を促しています。	2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。
2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。	

2014-15年度 『小学生ととりくむ自然・環境調査の約20年を振りかえり』	あおぞら財団では『子どもたちの参画べんきょう会』の事務局を担い、区内小学生を対象に四季を通じた西淀川の自然・環境調査イベント(春・タンボポ調べ、夏・セミのぬけがら調べ、秋・ハゼ釣り大会、冬・空気の汚れ調べ)を実施してきました。財團20周年を目前に控え、「子どもの参画べんきょう会」の在り方の見直しを行い、19年続けてきた「セミのぬけがら調査」の事業評価を実施(「りべら」138号、2015年12月)。改めて「二度と公害の起らぬ町」の実現のため、どのような事業が適切かつ効果的かを企画・検討していくことになりました。
西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。	西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。

2014-15年度 『西淀川・環境学習プログラム』 の発行	西淀川区内小学校で、 公害患者の語り部の 出前授業増加
「ドコモ市民活動団体への助成」を受け、これまでの環境学習の実績を踏まえ教育プログラム集を作成。	毎年小学校5年生3学期に区内小学校全校に働きかけ実施している公害の出前授業は、2014年度は6校337人、2015年度は7校363人を対象に実施しました。視聴覚教材を使つた授業と語り部の授業を提案していますが、2015年度は区内14校中半数の7校で語り部の授業を実施することができます。
西淀川公害を中心取り上げた『西淀川公害から学ぶ』、日本野鳥の会大阪支部とともに10年続けている定期探鳥会の蓄積から編集した『にじょどがわのかわいい鳥を見に行こう』、菜の花プロジェクトや「エコでつながる西淀川推進協議会」での活動を踏まえた『ゴミ』を資源にする方法を考える西淀川推進協議会の3冊で、西淀川区内的小中学校に配布し、活用を促しています。	2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。
2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。	

2014-15年度 『小学生ととりくむ自然・環境調査の約20年を振りかえり』	あおぞら財団では『子どもたちの参画べんきょう会』の事務局を担い、区内小学生を対象に四季を通じた西淀川の自然・環境調査イベント(春・タンボポ調べ、夏・セミのぬけがら調べ、秋・ハゼ釣り大会、冬・空気の汚れ調べ)を実施してきました。財團20周年を目前に控え、「子どもの参画べんきょう会」の在り方の見直しを行い、19年続けてきた「セミのぬけがら調査」の事業評価を実施(「りべら」138号、2015年12月)。改めて「二度と公害の起らぬ町」の実現のため、どのような事業が適切かつ効果的かを企画・検討していくことになりました。
西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。	西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。

2014-15年度 『西淀川・環境学習プログラム』 の発行	西淀川区内小学校で、 公害患者の語り部の 出前授業増加
「ドコモ市民活動団体への助成」を受け、これまでの環境学習の実績を踏まえ教育プログラム集を作成。	毎年小学校5年生3学期に区内小学校全校に働きかけ実施している公害の出前授業は、2014年度は6校337人、2015年度は7校363人を対象に実施しました。視聴覚教材を使つた授業と語り部の授業を提案していますが、2015年度は区内14校中半数の7校で語り部の授業を実施することができます。
西淀川公害を中心取り上げた『西淀川公害から学ぶ』、日本野鳥の会大阪支部とともに10年続けている定期探鳥会の蓄積から編集した『にじょどがわのかわいい鳥を見に行こう』、菜の花プロジェクトや「エコでつながる西淀川推進協議会」での活動を踏まえた『ゴミ』を資源にする方法を考える西淀川推進協議会の3冊で、西淀川区内的小中学校に配布し、活用を促しています。	2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。
2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。	

2014-15年度 『西淀川・環境学習プログラム』 の発行	西淀川区内小学校で、 公害患者の語り部の 出前授業増加
「ドコモ市民活動団体への助成」を受け、これまでの環境学習の実績を踏まえ教育プログラム集を作成。	毎年小学校5年生3学期に区内小学校全校に働きかけ実施している公害の出前授業は、2014年度は6校337人、2015年度は7校363人を対象に実施しました。視聴覚教材を使つた授業と語り部の授業を提案していますが、2015年度は区内14校中半数の7校で語り部の授業を実施することができます。
西淀川公害を中心取り上げた『西淀川公害から学ぶ』、日本野鳥の会大阪支部とともに10年続けている定期探鳥会の蓄積から編集した『にじょどがわのかわいい鳥を見に行こう』、菜の花プロジェクトや「エコでつながる西淀川推進協議会」での活動を踏まえた『ゴミ』を資源にする方法を考える西淀川推進協議会の3冊で、西淀川区内的小中学校に配布し、活用を促しています。	2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。
2015年度には教員を対象とした大阪市内北ブロック地域研修会(主催・教職員地域研修推進委員会)の講師に招かれ、中島大水道の歴史と西淀川公害について参加型による研修を実施しています。	

2014-15年度 『小学生ととりくむ自然・環境調査の約20年を振りかえり』	あおぞら財団では『子どもたちの参画べんきょう会』の事務局を担い、区内小学生を対象に四季を通じた西淀川の自然・環境調査イベント(春・タンボポ調べ、夏・セミのぬけがら調べ、秋・ハゼ釣り大会、冬・空気の汚れ調べ)を実施してきました。財團20周年を目前に控え、「子どもの参画べんきょう会」の在り方の見直しを行い、19年続けてきた「セミのぬけがら調査」の事業評価を実施(「りべら」138号、2015年12月)。改めて「二度と公害の起らぬ町」の実現のため、どのような事業が適切かつ効果的かを企画・検討していくことになりました。
西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。	西淀川公害の経験から学ぶ価値を発信しニーズを掘り起こし、公害を二度と起こさないための教育の充実に取り組む。

2014-15年度 『西淀川・環境学習プログラム』 の発行	西淀川区内小学校で、 公害患者の語り部の 出前授業増加



2016年3月、北京市内の街並み

日本の公害経験を いかした国際交流

事務局長 藤江徹

目標

日本の公害経験を世界、とりわけ東アジア地域の多くの人々に伝え、交流することで新たな被害を未然に防ぎ、現在直面している公害・環境問題を解決すること。

概要

日本の公害経験に関する資料の翻訳・情報発信。アジアの環境NGOメンバーや公害被害者との交流、中国の環境汚染地域への視察、海外からの視察・研修の受入などをおこなっています。

おもな業務一覧

- 環境省請負「大気汚染経験等情報発信業務」
- (公財)国際交通安全学会(IATSS)フォーラム研修受入(ASEAN9力国から18名、6月と10月)
- 「日中環境問題サロン」を継続開催



【2014年度】 中国の環境NGOメンバーを日本へ招聘／富山、大阪で研修

中国の環境NGOメンバー3人を日本へ招待して、「日中公害・環境問題に関する研修プログラム」をおこないました。

富山市で開催された「第2回公害資料館連携フォーラム in 富山」へ参加し、大阪では、西淀川地域での大気汚染について、あおぞら財団や西淀病院で研修を受けました。とくに今回の研修メンバーは、医療面での対策に同心が高く、富山・大阪両地域において、医療機関において具体的な情報を提供することができました。

中国の環境NGOメンバーや公害被害者との交流、中国の環境汚染地域への視察、海外からの視察・研修の受入などをおこなっています。



【2015年度】 中国の環境NGOを訪問／大気汚染と健康被害の因果関係はいかに

2016年3月14日～17日

河北省石家庄市、北京市をおとずれ、中国の環境NGOや専門家を訪問し、ヒアリング・情報交換をおこないました。

中国国内では大気汚染問題に対する意識が以前に比べて高まっており、順次、法改正も行われています(新環境保護法施行(2014年4月公布)、大気汚染防止法改正(2015年8月公布))。3年前と比べて、環境NGOの大気汚染問題に対する活動は、大きく進展していることがわかりました。現地調査と現地の環境保護機関との「約会」を中國国内で積極的に実施し、その情報をSNSを用いて広く市民に知らせることで、より正確な情報公開と対策を促しています。

これらの活動は、公衆参加を促しつつ、汚染源を監督し、政府との連携による対応を進める新たな環境ガバナンスへの実践となっています。

今後の展望

各国の環境NGO等との交流を進め、国内外では「日中環境問題サロン」を継続実施し、中国をはじめアジアの環境問題に关心のある人のネットワークを広げていいく。



呼吸筋を鍛える体操、楽らく呼吸会にて。

(独法)環境再生保全機構「地域におけるCOPD対策推進事業(NPO法人等との協働事業)

概要
大気汚染による呼吸器疾患をもつ患者やCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の患者を対象にした呼吸ケア・リハビリテーションの普及やCOPDの早期発見・早期治療に向けた取り組みをおこなっています。

目標
公害患者の健康を回復するこど、生きがいづくりをめざしています。

公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進めめる活動

研究員 鎌山善理子

【2014年度】 COPD(慢性閉塞性肺疾患)対策推進事業がスタート

2014年度からあらたに3カ年の計画で「地域におけるCOPD対策推進事業(NPO法人等との協働事業)」がはじまりました。この事業では、大阪と倉敷で地域におけるCOPDの普及啓発をおこない、COPDの早期発見を促すとともに、地域のCOPD患者や医療従事者等に呼吸ケア・リハビリテーションを普及させ、患者の自己管理能力やQOL(生活の質)の向上を図ることを目的としています。

呼吸ケア・リハビリテーション教室「楽らく呼吸会」を区内3診療所で継続中

患者向けの呼吸ケア・リハビリテーション教室「楽らく呼吸会」は、区内の3つの診療所で2カ月に1回、開催しています。講義は、運動面だけではなく、栄養、薬、タバコの害など、幅広い内容になっています。また、呼吸ケア・リハビリテーションについての知識や技術を身につけるだけではなく、患者どうしが集い、支え、励まし合える場でもあります。



▲矢倉海岸まで遠足



【2015年度】 座学と実技が充実の医療従事者向けの呼吸ケア・リハビリテーション講習会

COPDや呼吸ケア・リハビリテーションのことを少しでも多くの人に知つてもらおうと、初心者から専門家まで幅広くを対象にした内容となっています。

COPDや呼吸ケア・リハビリテーション講習会を開催しました。看護師、保健師、介護関係者など、呼吸器疾患をかかえる患者さんに日ごろ接している人たちが対象です。

医療従事者向けの呼吸ケア・リハビリテーション講習会

今後の展望

地域の他の医療機関や行政への広がりをつくること、COPDがはじめている患者なのが、症状が出た適切なアプローチ方法を検討していく。

ただいま
21
年目

いろんな事に取り組んで、この紙面では紹介しきれない活動がたくさんあります。
詳しくはホームページに掲載している年報等をご覧くださいね。

20
年目

(2015年度)

- 西淀川公害の参加型学習教材作成
- 「中島大水道まち歩きマップ」完成(中島水道サロン)
- 防災絵本「西淀川にたいふうがきた」

19
年目

(2014年度)

- IATSSフォーラム研修受け入れ(～2015年度)
- エコでつながる西淀川推進協議会主催「ニシヨドガワノラシゴト」(～2015年度)
- おもろいわ西淀川アワード開催

18
年目

(2013年度)

- 公害資料館ネットワーク結成、以降、全国フォーラムを毎年開催
- 「みてアート(御幣島芸術祭)」開始
- 西淀川災害記録ヒアリング

17
年目

(2012年度)

- 被災地のエコツーリズム体験ツアー開始
- 災害時要援護者避難訓練開始
- 地域Café(あおぞライコバでみせ)開催

16
年目

(2011年度)

- 佃地域での廃油回収事業スタート(トヨタ財団)
- 東日本震災支援募金で遠野まごころネットにワゴン車提供
- 楽らく呼吸会スタート(環境再生保全機構)
- 御堂筋サイクリングニックスタート

21
年目

■あおぞら財団ホームページ「年次報告書」

<http://aozora.or.jp/yomu/nenjihoukoku>



あおぞら財団 20年間の道のり



20
年目

(2006年度)

11
年目
(2006年度)



- エコドライブが地球温暖化環境大臣賞を受賞
- 『西淀川発! これからの交通まちづくり～低速交通のすすめ～』発表
- 公害資料の電子化に着手
- フードマイレージ買物ゲーム完成

10
年目
(2005年度)



- 西淀川・公害と環境資料館オープン
- 中小運輸事業者へのデジタルタコグラフの組織的導入によるエコドライブ推進事業
- 環境学習ビデオ「手渡したいのは青い空～未来からのメッセージ」作製

1
年目
(1996年度)



- まちづくりたんけん隊、原風景・原体験のほりおこし活動
- 西淀川地域資料室開設
- タンボポ調査開始、こどもエコクラブ発足

19
年目

(2014年度)

12
年目
(2007年度)



- 朝日新聞「明日への環境賞」授賞
- 「環境と福祉を統合する参加型交通まちづくり」の実践を伴った調査・研究
- 自転車文化タウンづくりの会発足
- ESD(持続可能な開発のための教育)モデル地域(環境省)

9
年目
(2004年度)



- 「西淀川区ウォーキングマップ」作製(日本市民スポーツ連盟限定コース)
- 講演会「ぜん息治療の最前線」の開催

2
年目
(1997年度)



- 西淀川フィールドミュージアム『まちあるきマップ』発行
- セミの抜け殻調査開始

18
年目

(2013年度)

13
年目
(2008年度)



- 地球温暖化防止「一村一品」大作戦全国大会でフードマイレージ買物ゲームが特別賞を受賞
- 西淀川公害展示パネル完成

8
年目
(2003年度)



- エコドライブ実証実験開始
- 道路環境市民塾開講
- 入居ビルを西淀川公害病患者と家族の会と区分所有で購入「あおぞラビル」

3
年目
(1998年度)



- 西淀川道路環境再生プラン提言』発行
- 自転車による工場通勤モデル実験
- インター受け入れ開始

17
年目

(2012年度)

14
年目
(2009年度)



- 環境フロンティア講座スタート
- 公害地域の今を伝えるスタディツアー開始
- 「BDF普及モデル事業」(環境省)と、菜の花紙芝居「さあはじめよう」作成
- 日中環境問題サロン開始

7
年目
(2002年度)



- 大阪人権博物館で企画展「西淀川公害と地域と再生」
- SCPプロック完成
- 公害病認定患者の生活実態調査
- 公害患者のための水中リラックス教室開催

4
年目
(1999年度)



- 総合環境学習ゾーン拠点施設に指定(環境省)
- 公害患者への園芸療法をスタート
- 子ども環境マップコンクール

16
年目

(2011年度)

15
年目
(2010年度)



- 上海国際博覧会日本館にて西淀川公害パネル展示
- 地域交流スペース「あおぞライコバ」完成
- 「記録で見る大気汚染と裁判」ホームページ作成(環境再生保全機構)

6
年目
(2001年度)



- 『西淀川公害に関する学習用パネル』発行
- 大野川緑陰道路と矢倉緑地公園をつなぐ自然観察ゾーンづくりの提案
- NGO国際会議と市民のつどい開催(北九州)
- 韓国司法修習生の受け入れスタート

5
年目
(2000年度)



- 西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会発足
- 『都市に自然をとりもどす』(学芸出版)発行
- 『つくってみよう身の回りの環境診断マップ』発行



2014年度 2015年度

資金調達（ファンドレイジング）

目標

あおぞら財団のミッションを実現するための活動資金を得る

概要

資金調達として、寄附者・会員を増やすための呼びかけ、屋上看板や機関紙「りべら」紙面の広告掲載の呼びかけをおこなっています。

おもな業務一覧

- ・寄附の呼びかけ
- ・屋上看板、機関紙「りべら」広告募集
- ・会員募集
- ・支援金サイト「gooddo」、オンライン寄附「GiveOne」への登録と支援呼びかけ

【2014年度・2015年度】

これまでの寄附金分析をおこなった結果、寄附金収入が減少しており、少額寄附者によって支えられている現状がわかりました。そこで、継続的寄附者の確保、新規寄附者の開拓のため、会員や寄附者情報の一元化が課題となり、名簿管理システムの見直しに2014年度に着手し、2015年度にかけて、データの整理、統合をおこないました。

機関紙「りべら」には2社（浜田化学、あおぞら苑）から広告収入を得ています。屋上看板は3面中2面を貸出しています。

今後の展望

寄附、会費ともに減少傾向にあります。2017年度に設立20周年を迎えるにあたって、これまでの成果をしっかりと報告すること、プロジェクトごとに寄附を集めること、逼迫した財政状況をきちんと伝えることを通じて、過去の会員や寄附者、新規の寄附者に支援と協力を呼びかけていきます。

◎財政状況

・2014年4月1日～2015年3月31日

(単位:円)

資産運用益	3,571,296
会費	1,262,000
受託金等	22,820,131
寄付金	1,544,330
雑収入	5,497,526
基本財産取崩収入	20,000,000
積立金取崩収入	4,150,000
合計	58,845,283
事業費	40,256,899
管理費	12,827,236
積立金取得支出	17,000
固定資産取得支出	115,020
合計	53,216,155
当期収支差額	5,629,128
前期繰越収支差額	12,076,459
次期繰越収支差額	17,705,587

・2015年4月1日～2016年3月31日

(単位:円)

資産運用益	3,317,142
会費	1,187,000
受託金等	37,754,139
寄付金	676,615
雑収入	5,905,231
基本財産取崩収入	0
積立金取崩収入	4,875,950
合計	53,716,077
事業費	48,423,914
管理費	11,139,454
積立金取得支出	0
固定資産取得支出	675,054
合計	60,238,422
当期収支差額	-6,522,345
前期繰越収支差額	17,705,587
次期繰越収支差額	11,183,242

◎賛助会員

・2014年度

(2015年3月末時点)

個人	142
学生	1
法人	16
団体	18

・2015年度

(2016年3月末時点)

個人	138
学生	1
法人	16
団体	16

あおぞら財団設立20年 ワーキンググループ

田代 優秋（あおぞら財団／現 和歌山大学）

目標

2016年度で20周年を迎える「あおぞら財団」。これまでを振り返り、今後の財団のあり方を考える。

概要

20年前の1996年9月11日、あおぞら財団が生まれました。しかし今、その当時から比べて西淀川の大気環境、お住いの地域住民、抱える地域課題などは大きく変化しました。

財団は今後、どこを目指し、何をすべきか、私たちだけですんなりと答えられる問い合わせではありません。そこで、外部の有識者を加えて「あおぞら財団設立20年ワーキンググループ」を立ち上げました。

主な業務一覧

- ・あおぞら財団理事へのヒアリングと課題整理
- ・職員へのヒアリングと「これからのビジョン」づくり
- ・ワーキングの立ち上げと運営



▲今後について理事会にて検討中(2016.2.27)

2014～2015年度、今後の展望

理事や職員へのヒアリング、ワーキングでの議論から、数多くの事業成果が指摘されましたが、一方で多岐に涉る課題点も浮き彫りになりました（図参照）。あおぞら財団に関わる人たちの間でも「見方」は多面的です。財団の変わらない価値観は、設立目的である「公害地域の再生」であり、わかりやすく読み解けばスローガンである「手渡したいのは青い空」でした。

それを実現するための具体的な手順（事業内容）を考え出すことまでは時間的に困難でした。そこで今後は、これから10年間に渡って財団があり続けるために「経営基盤の強化」を基本に、これまでの議論を受けて絞り込まれた「主要事業の成果と課題点」を見直し、今後の事業全体を貫く「財団のメッセージ」を明確にすることになりました。しかし、これだけでも十分な提言とはいえず、「事業評価委員会（仮称）」に引き継がれることになります。

◆ 図：あおぞら財団を良くするために改善すべきこと（論点）の整理

